

平成27年度 学校経営の改革方針

三重県立いなべ総合学園高等学校

I 目指す学校像(基本理念)

自主自律のもと「生徒一人一人の能力の伸長」と「教職員の達成感」を常に追い求め、地域の人々に信頼される学校を目指します。

II 現状と課題

- 1 北勢地域唯一の総合学科高校として14年間歩んできた成果を踏まえ、本校独自の学びのシステムについて検証し、一段の飛躍を目指す必要があります。
- 2 多様な生徒のニーズに対応し130科目以上の授業を開設していますが、きめ細かい学習指導を通してさらに生徒の学力向上を目指すとともに、生徒の学習習慣の確立や学習意欲の向上に向けて引き続き着実な取り組みが求められています。
- 3 「産業社会と人間」、「I V Yタイム」等の授業を通してキャリア教育を体系的に進め、生徒自らの主体的な進路選択を実現していますが、近年の厳しい社会情勢や環境の変化に対応できるよう、情報の共有化とガイダンス機能の強化など個々の生徒支援体制を確立する必要があります。
- 4 明るく挨拶を交わせる生徒が多いなかで、基本的な生活習慣や規範意識が弱い生徒も見受けられ、保護者・地域との連携のもとに全職員で粘り強く指導するとともに、幅広い分野で積極的に人権教育を進める必要があります。
- 5 恵まれた設備のもと、生徒の健全育成と学校活性化に大きな役割を果たす部活動は、各部とも様々な場面で活躍しています。さらなる活性化を目指します。
- 6 地域に開かれた学校として公開講座を開催しています。授業公開など今後も幅広い活動を通じて地域の期待に応えていく必要があります。

III 中長期的な重点目標

- 1 多様な個性や進路希望を持つ生徒一人一人の自己実現のために、総合学科の特性を生かしたきめ細かい学習指導を行い、生徒の学習習慣の確立と学力の向上に向けて着実な取り組みを行います。
- 2 生徒一人一人の基本的な生活習慣や規範意識のより一層の確立を目指して、保護者・地域との連携のもと、全職員で粘り強く指導を実施していきます。
- 3 生徒の健全育成にむけて、運動部・文化部・生徒会活動の一層の活性化を図るとともに、自ら主体的で健康な生活ができる力やものを大切にする心の育成をはかります。
- 4 北勢地域唯一の総合学科高校として、新教育課程のもと一段の飛躍を目指すとともに、学校経営の改善を通じて組織力の向上に努め、常に地域に開かれた学校として、積極的に地域の生涯学習の拠点としての役割を果たします。
- 5 防災教育を充実し安全・安心な学校を目指すと共に、教職員が働きやすい職場を目指し改善を図ります。

IV 本年度の行動計画

1 多様な個性や進路希望を持つ生徒一人一人の自己実現のために、総合学科の特性を生かしたきめ細かい学習指導を行い、生徒の学習習慣の確立と学力の向上に向けて着実な取り組みを行います。

(教務)

- ・ 生徒一人ひとりの学力の伸長を図ります。上位層・下位層の引き上げを重点的に行う方法を研究します。
- ・ 授業の創意工夫と改善に努め、きめ細かい授業展開を推進します。家庭学習の教科など教職員間の情報共有を図り、一つ上を目指した生徒の進路希望実現に向けて授業改善に努めます。
- ・ 「産業社会と人間」や「IVY タイム」におけるキャリア教育を通して進路希望の実現を図ります。

(進路)

- ・ 日々の授業を大切に、定期考査や実力テストにむけて計画的に学習できるように指導します。
- ・ 課外授業・小論文対策・就職試験対策・入試問題演習等を年次進路係と連携して実施します。
- ・ キャリア担当と連携して、社会人講話などガイダンスの質を高め、科目登録に関する情報を明確にします。
- ・ 進学に関しては基礎学力に基づく一般入試までを見通した受験を指導し、国公立大受験延べ15名以上受験、合格10名をめざします。
- ・ 就職に関しては挨拶とマナー・服装に気をつけ、コミュニケーション能力と基礎学力を身につけさせ、特に面接指導の充実を図り、不況下でも学校推薦内定100%をめざします。

(年次)

- ・ 授業・家庭学習を大切にさせ、小テストや定期的な課題、提出物の期限厳守などにより学習習慣の確立に努めます。
- ・ 能力に応じた幅広い指導、学習意欲を高める指導、学力の底上げと向上の指導の工夫に努めます。
- ・ 「産業社会と人間」や「IVY タイム」の効果的な活用、シラバスを活用した科目登録、個別面談の実施により、生徒の進路意識を高め、希望進路の100%実現を目指します。
- ・ 進学課外「いなべ特進塾」を確立させます。
- ・ 各種の検定試験や資格取得に積極的に挑戦させます。

(総務:図書)

- ・ 図書館の有効利用を推進します。(年間図書貸出冊数5000冊以上)
- ・ ビブリオバトルを通して高校生の読書活動推進と思考力・判断力・表現力等の育成に努めます。
- ・ 進路の特設コーナーを設置し、資料収集に努めます。

2 生徒一人一人の基本的な生活習慣や規範意識のより一層の確立を目指して、保護者・地域との連携のもと、全職員で粘り強く指導を実施していきます。

(生徒指導)

生徒一人ひとりの基本的な生活習慣や規範意識の一層の確立とともに、安心・安全な学校環境づくりを目指します。

- ・ 全教職員の指導により、生徒一人一人の基本的な生活習慣の確立に努め、社会人としての常識を身につけさせます。
- ・ 学校や社会のルールを遵守させ、規範意識の確立を目指します。集会での講話、通信等の発行を行います。
- ・ 学校生活調査やいじめアンケート等を通じて情報を収集し、その分析と対応を適切に行います。
- ・ 各年次・人権教育推進委員会・教育相談係との連携・協力体制を強化します。
- ・ 問題行動をとった生徒への細やかな対応を適切に行います。
- ・ 生徒会(特別活動部)との連携を強化し、生徒目線での学校改革を進めます。

(進路)

- ・ 授業の始業時や職員室の入室の際、挨拶やマナーを指導し、制服の正しい着用を徹底します。

(別紙様式)

- ・ 保護者説明会への参加者数8割以上を目指します。保護者への進路情報の積極的な提供に努めます。また、保護者の進路指導室利用をすすめます。

(年次)

- ・ すべての基本となる生活習慣の確立、規則や時間を守る意識の向上を図ります。
- ・ 人権学習等を通じて、生徒の人権意識を高め、自主自律の精神を育てます。
- ・ 挨拶や5分前行動など、社会人として求められる基本的な生活習慣の確立を図ります。(3年次)
- ・ 服装指導の徹底と挨拶の励行に努めます。持ち物の整理整頓と清掃への意欲的な取組を促します。(2年次)
- ・ 服装指導の徹底と挨拶の励行に努めます。教職員間の情報共有を徹底するとともに人権的な視点に立って生徒の理解を心掛けます。(1年次)

3 生徒の健全育成にむけて、運動部・文化部・生徒会活動の一層の活性化を図るとともに、自ら主体的で健康な生活ができる力やものを大切に育む心育成をはかります。

(特活)

- ・ 生徒会行事や部活動等を通じて、生徒の自主性・自治能力をより高めます。
- ・ 生徒会執行部を中心に、行事等において積極的に活動する学校全体の雰囲気作りに取り組みます。

(保健環境)

- ・ 生徒自ら健康管理ができるよう、定期的に保健通信を発行し、健康に関する情報を提供します。
- ・ タバコやドラッグ、HIV等について、つたわかば祭で展示発表をし、問題意識を高めます。
- ・ 学年やチューターと協力して、ゴミの分別への啓発活動に取り組み、その定着を図ります。
- ・ 保健環境委員会活動を通じて環境美化の活性化を図るとともに、日常の積極的な清掃活動の推進を図ります。
- ・ 保健部と教育相談が連携し、心の悩みのある生徒の支援に努めます。

4 北勢地域唯一の総合学科高校として、新教育課程のもと一段の飛躍を目指すとともに、学校経営の改善を通じて組織力の向上に努め、常に地域に開かれた学校として、積極的に地域の生涯学習の拠点としての役割を果たします。

- ・ 新テスト(高等学校基礎学力テスト(仮称)及び大学入学希望者学力評価テスト(仮称))に向けた研究と準備を進めます。
- ・ 新たな教育課題に対応できるよう教職員の研修を充実します。
- ・ 校内ネットワーク及び校務処理システムの安定した運用ができるよう改善策を検討します。
- ・ 学校への理解と信頼を深めるため、学校案内、ポスター、I V Y通信、HP等の充実を図るとともに、保護者会・定期的な学年通信の発行等により積極的な情報発信に努めます。
- ・ 進路別保護者会への出席率90%以上を目指します。
- ・ 学校HPについては毎月更新を図ります。
- ・ 絆ネットの生徒や保護者の登録率を90%以上とし、学校行事や緊急連絡を発信します。
- ・ 地域開放講座「学びのプラザ」を年間を通じて開講し、受講者数の増加を目指します。
- ・ 地域の高等学校として、積極的に地域とつながり、地域と連携・協力した取組を進めます。
- ・ 4～7月に3年生、9～12月に1年生、1～3月に2年生による学校周辺の清掃を行います。

5 防災教育を充実し安全・安心な学校を目指すと共に、教職員が働きやすい職場を目指し改善を図ります。

- ・ 様々な危機に対応できる体制の強化に努め、安心・安全な学校作りに努めます。緊急地震速報を確認し、第一次非難から第二次非難を適切に行えるようにします。
- ・ 各年次や各分掌との連携を密にし、学校行事等が円滑に実施できるよう努めます。
- ・ 校内ネットワークやe-教務が安定して運用ができるように改善策を検討します。
- ・ 会議の効率化等を図るとともに、総勤務時間の縮減化に向けて、様々な場で検討し、改善点を見いだしていきます。